

仙台市基本構想(中間案)

1 仙台の未来へ

この基本構想は、21 世紀半ばを展望して目指す都市像を掲げた指針です。

(1) 未来に生かす仙台の資産

「杜の都」仙台は、自然と調和する都市という個性、地域や市民の活動の蓄積など、さまざまな資産を生かしながら発展してきました。学都の知的資源は、国内外から人材や活力を集め、新しい価値を生む源泉になっています。東北唯一の政令指定都市として、都市機能が集積し、東北の交流と賑わいの中心となり、世界とのつながりを強めてきました。

(2) 仙台を取り巻く時代環境を越えて

地球規模で温暖化など環境問題が深刻化し、わが国、特に東北では人口減少や少子高齢化が進んでいます。本市でも人口減少時代が到来する一方で高齢化が進行し、地震など自然災害の危険が高まるなど、取り巻く時代環境は厳しさを増しています。

仙台の東北における比重は増し、東北の持続的な発展を支えるために果たすべき役割も増えています。持続的に都市の豊かさを向上させていくためには、都市の交流機能を最大限に発揮し、多様な交流から新しい価値を創造しながら、多様な主体との協働により未来に責任を持つ確かな都市経営を確立していくことが重要です。

私たちは、杜の都の先進性や地域で支え合う力など多くの資産を生かして新しい価値を創り出し、未来への希望をつないでいきます。

2 仙台の未来を創る市民力

個人や企業、地域団体、市民活動団体などの多様な市民の力は、都市の魅力と活力を創り出しています。仙台の未来を創るこれからのまちづくりに向けて、仙台の市民力を共に育み、協働のまちづくりを推進します。

(1) 支え合う市民力

私たちの暮らす仙台は、全国的にも地域活動や市民活動が盛んな地域であり、脱スバイクタイヤの運動は国の法制定につながる先駆的なものでした。町内会などの地域団体や多くの市民活動団体に広がる支え合う活動は、さまざまな場面で大きな成果を生み始めています。こうした市民力は、防災や防犯、介護や子育ての支援など、これからの地域課題の解決に大きな役割を果たすことが期待されます。

(2) 賑わいと魅力を生む市民力

仙台では、市民が企画・運営するイベントが全国規模に成長しているほか、文化活動やプロ・スポーツに見られる熱心な市民ボランティア活動など、多様な市民力が都市イメージの向上や新たな交流と賑わいを生む力になっています。

文化や芸術、スポーツなどから都市の新しい魅力を創造する市民力により、観光やビジネスの分野でも、さまざまな動きが生まれています。

(3) 広がる新しい市民力

市民力のすそ野はさらに広がり、学都の資産でもある学生の力は、イベントや福祉の分野に加え、町内会や市民活動団体などと連携して地域のまちづくりに取り組む事例も増えています。

また、企業市民と呼ばれるように、企業の社会貢献活動も広がっています。多くの市民

イベントは、企業の支援に支えられており、従業員のボランティア参加や退職後に地域とのつながりを深め、知識や技術・経験を生かすことを願うシニア層も増えています。

これからの仙台のまちづくりには、これらの多様な市民力との協働を進めることが必要です。

3 仙台の都市像

私たちは、仙台が、どのような時代環境にあっても豊かな暮らしを支える持続可能な都市、「ひとが輝き続ける杜の都」でありたいと願います。そのため、仙台がこれまで育んできた都市個性を発展させた以下の4つの都市像を目指すべき将来の姿として掲げます。

(1)「未来を育み創造する学びの都」

「学び」は人を成長させるだけでなく、人が輝き個性を発揮しながら充実して生きていくために欠くことができないものです。誰もが学び合い、創造的に活動することで、暮らしや社会に新しい価値が生まれます。地域に多彩な学びの場があり、学びを通じて都市のさまざまな魅力を創り出していくことが大切です。

まち全体を学びの場として、仙台の歴史や伝統、地域資源を大切にしながら、一人ひとりの創意工夫と実践により多彩な文化活動を生み出すとともに、誰もが芸術やスポーツを楽しむことができるまち

若者の力を生かして賑わいと活力を創り出し、新たな人材や情報の多様な交流により、新たな価値を創造するなど、学都の成果を市民や地域全体で享受できるまち

家庭と地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちが夢と希望を持って生きる力を育むことができるまち

(2)「支え合う健やかな共生の都」

都市には多様な個性と価値観を持つ多くの市民が暮らしています。その中で、誰もが自分らしく輝き続けるためには、互いを認め合い、支え合いながら地域の中で共に暮らしていけることが大切です。

年齢や性別、障害の有無などに関わらず、生涯を通じて健やかに、自立して生きがいを持ち続けることができるまち

地域の信頼を高め、子育てや介護など、共に支え合うまち

多様なまちづくりの主体が、互いに知恵を出し合い、連携することで、地域が活性化し、豊かに暮らすことができるまち

地域の共助機能を高めて、災害による被害を軽減し、犯罪を防ぎ、地域の中で安全に安心して暮らすことができるまち

(3)「自然と調和し持続可能な潤いの都」

将来にわたり持続的に発展することができるよう都市の骨格を整え、機能集約型の都市構造をつくることが課題になっています。地球環境を保全し、杜の都の良好な都市環境を未来につないでいくことが大切です。

環境負荷の小さい低炭素・資源循環型の都市づくりを進め、地球環境の保全への取り組みを事業活動や日常生活のさまざまな実践で支えるまち

水と緑のネットワークを形成し、多様な生態系を保全するなど、豊かな自然と調和した本市のライフスタイルを未来につなぎ、誰もが杜の都にふさわしい自然環境と景観に触れることができるまち

公共交通を中心とした利便性の高い交通体系に支えられたエネルギー効率の高い機能集約型の都市構造の構築を進め、便利で快適に暮らし、活動できるまち

(４)「東北を支え広く交流する活力の都」

仙台が東北の発展を支え先導する役割を担い、東北の優れた地域資源を連携させ、積極的に発信し、東北全体の底上げを図っていくことが大切です。内外のさまざまな交流により、新たな成長産業を生み出し、仙台の活力をさらに高めていきます。

アジア諸国をはじめとする世界との経済や人材の交流により、新たな成長に結びつく価値を創造するまち

仙台の経済や雇用を支える中小企業が、さまざまな連携や技術革新により、持続的に活力を発揮できるまち

市民主導の文化イベントやプロ・スポーツによる賑わいの創出など、地域の新しい魅力を創り上げ活力を生むまち

広域交通ネットワークや物流拠点機能など、内外との交流の拠点となる都市機能の充実に努め、東北全体の活力を支える役割を果たすまち

４ 仙台の確かな都市経営

(１) 自立的・創造的な都市経営に向けて

地方分権が進む中、地域課題について地域自身が考え、対応していくことがより強く求められます。高齢化や人口減少に伴って、行政運営においても担い手の多様化や選択と集中などに取り組むことが必要になってきます。

福祉サービスや公共施設の整備運営における新たな実施主体の参入、地域における共助の取り組みの拡大など、公共的なサービスの担い手は多様化し、拡大しています。市民力による公共サービス分野への参加が広がれば、雇用の創出や市民生活の向上といった好循環も期待できます。

こうした公共的な分野の担い手の広がりや市民の関心の高まりなどに伴い、情報公開を進め、説明責任を果たすことを基本に、行政運営に協働の仕組みを取り入れていくことが一層重要になってきます。

市役所の自己改革を進めながら、自立的・創造的な都市経営に向けて、さまざまな取り組みを加速します。

(２) 総合計画の推進

この基本構想に掲げた都市像の実現に向けて、長期的な計画目標を掲げる「基本計画」と中期的な計画目標を掲げる「実施計画」を定め、基本構想と合わせて、「仙台市総合計画」と位置づけます。

基本計画・実施計画の施策の進捗状況については、分かりやすい目標を掲げるとともに、適切な評価の仕組みにより、その実効性を確保していきます。